

タナゴ類（コイ科タナゴ亜科）

現在の日本では4属18種（亜種含む）のタナゴ亜科魚類が知られている。このうち茨城県には7種が分布している：ヤリタナゴ、カネヒラ、タナゴ、アカヒレタビラ、ゼニタナゴ、タイリクバラタナゴ、オオタナゴ。このうち、タイリクバラタナゴとオオタナゴは国外外来種で、カネヒラは国内外来種である。

タナゴ類の産地としてよく知られた霞ヶ浦水系において現在よくみられる種はタイリクバラタナゴとオオタナゴで、タナゴやヤリタナゴ、アカヒレタビラ、カネヒラは少ない。ゼニタナゴにいたっては2000年以降、確認記録が途絶えており、絶滅が心配されている。

タナゴ類はマツカサガイやドブガイなどの二枚貝に産卵する。その方法は、産卵期になると長く伸びる産卵管を貝の出水管に通して貝の鰓に産みつけるというもの。貝の中でふ化した仔魚はそのまま貝の中で成長し、全長約7~10 mmに達する頃、貝から泳ぎ出る。産卵期は種によって異なるが、春から初夏に産卵する種（春産卵型）と秋に産卵する種（秋産卵型）がいる。春産卵型の場合、成長した仔魚はその年のうちに貝から泳ぎ出るが、秋産卵型の場合は翌年の春に泳ぎ出る。また、普通、産卵期のオスは体色が鮮やかになる（婚姻色）。餌は動物プランクトンやイトミミズなどの小型動物のほか付着藻類など。

茨城県版レッドデータブックでは、ゼニタナゴは絶滅危惧種に、ヤリタナゴとタナゴおよびアカヒレタビラは危急種に選定されている。タイリクバラタナゴとオオタナゴは外来生物法の要注外来生物に選定されている。なお、環境省のレッドリストではゼニタナゴが絶滅危惧ⅠA類に、タナゴとアカヒレタビラが絶滅危惧ⅠB類に、ヤリタナゴが準絶滅危惧に、それぞれ選定されている。

タナゴ



学名：*Acheilognathus melanogaster*

大きさ：全長 10 cm

特徴：体高が低く、口ひげは短い。肩部に丸い暗色斑があるがあまり目立たない。体側の暗色縦帯は腹びれ起部より前から始まるが、肩部の暗色斑とはつながらない。春産卵型。

アカヒレタビラ



学名：*Acheilognathus tabira erythropterus*

大きさ：全長 8 cm

特徴：体高はやや低いクタナゴよりは高い。肩部に丸い暗色斑がある。体側の暗色縦帯は腹びれ起部より後ろから始まる。春産卵

型。オスの腹びれ前縁は白く縁どられる。
産卵期のオスは臀びれ外縁が赤くなる。

ヤリタナゴ



学名：*Tanakia lanceolata*

大きさ：全長 10 cm

特徴：体高はやや低く，口ひげは日本産タナゴ類のなかで最も長い。背びれの鰭膜の中ほどに紡錘形の暗色斑がある。肩部の暗色斑と体側の暗色縦帯はない。タナゴやアカヒレタビラに体形は似ているが，背びれの暗色斑や体側の縦帯の有無などで見分けられる。また，本種は臀鰭外縁が赤いが腹びれ外縁は白くないことでアカヒレタビラのオスと区別可能。春産卵型。

カネヒラ



学名：*Acheilognathus rhombeus*

大きさ：全長 12 cm

特徴：タナゴ類においては大きく，体高も高い。口ひげは短い。背びれと臀びれの分枝軟条数はそれぞれ 12～13 本，9～11 本と

多い。これより多いのは茨城県産タナゴ類ではオオタナゴのみで，逆に少ないのはタナゴ等多数。肩部の暗色斑は顕著で，その形は三角形様にみえる。秋産卵型。

霞ヶ浦に分布するようになった時期は定かではないが，1978 年には釣れるようになったことが記録に残されている。

タイリクバラタナゴ



学名：*Rhodeus ocellatus ocellatus*

大きさ：全長 8 cm

特徴：体高が高く，大型のオスでは背が盛り上がる。口ひげはなく，側線は不完全。体側の暗色縦帯は腹びれ起部より後ろから始まる。オスの多くは腹びれ前縁が白色。小型個体の背びれ前半には黒色斑があり，よく目立つ。オオタナゴの小型個体も黒色斑をもつが，形状や濃さなどで見分けられる（オオタナゴの方が不明瞭）。産卵期のオスの体色は，背面が光沢をもつ青緑色，尾びれの中央付近などが赤色となる。本種の産卵期は長く，産卵型としては春産卵型だが夏季も産卵が続く。水路や湖岸域などいろいろなところでみられる。

1943 年と 1945 年に中国大陸から利根川に移入されたソウギョ種苗に混入して日本に分布するようになったとされている。霞

ヶ浦では 1950 年頃からよくみられるようになったと記録されている。

オオタナゴ

学名：*Acanthorhodeus macropterus*

大きさ：全長 20 cm

特徴：体高が高く、日本産タナゴ亜科魚類で最も大きい。口ひげはあるが短い。肩部やや後方にやや小さな暗色斑がある。背びれと臀びれの分枝軟条数はカネヒラよりも多く、それぞれ 15~18 本、11~14 本。同時に軟条数でその他のタナゴ類と区別できる。春産卵型。霞ヶ浦水系では 2000 年頃からみられるようになった。



写真：上はオオタナゴの成熟個体（上がオスで、下がメス）、下は若魚。成魚のメスは産卵管が伸びている。臀びれの色も雌雄で異なる。

ゼニタナゴ

学名：*Acheilognathus typus*

大きさ：全長 9 cm

特徴：鱗が細かく、全体に黒っぽくみえる。側線は不完全で、前方に限られる。側線が不完全な種は本県産タナゴ類のなかでは本種の他にはタイリクバラタナゴのみ。口ひげがない。秋産卵型。



主な文献：

荒山和則・富永 敦（2009）霞ヶ浦の湖岸と周辺の堤脚水路におけるフナ仔稚魚の出現。茨城内水試研究報告, 42: 1-7.

Arai, R., H. Fujikawa and Y. Nagata (2007) Four new subspecies of *Acheilognathus* bitterlings (Cyprinidae: Acheilognathinae) from Japan. Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. A, Suppl. 1, pp. 1-28.

荻原富司（2007）生息拡大するオオタナゴの生態。荻原富司・熊谷正裕編，平成調査 新・霞ヶ浦の魚たち。霞ヶ浦市民協会，土浦，茨城。p. 119-122.

熊谷正裕（2001）大型タナゴ・カネヒラの定着とその影響。霞ヶ浦研究, 12: 6-9.

諸澤崇裕・藤岡正博（2007）霞ヶ浦における在来 4 種と外来 3 種のタナゴ類(Acheilognathinae) の生息状況。魚類学雑誌, 54: 129-137.

伍献文 他. 中島経夫・小早川みどり訳. 1980. 中国鯉科魚類誌 上巻. たたら書房, 鳥取. 347 pp.

【写真提供】

今井 仁氏（自然環境研究センター）：アカヒレ
タビラ

加納光樹氏（茨城大学）：カネヒラ